

平成29年度

第1回駒ヶ根市総合教育会議

議 事 録

駒ヶ根市教育委員会

平成29年度 第1回駒ヶ根市総合教育会議議事日程

平成29年4月28日（金曜日）
駒ヶ根市役所本庁舎2階大会議室
午前10時00分 開会

1 開会

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 平成29年度事業の推進について

(2) その他

4 意見交換

5 その他

次回教育総合会議 開催予定：平成29年7月（平成29年度第2回）

6 閉会

出席者

教育委員会

教 育 委 員 長	北 原 美 香
教育委員長職務代理	下 島 公 平
教 育 委 員	福 澤 惣 一
教 育 委 員	唐 澤 浩
教 育 長	小 木 曾 伸 一

市長部局

市 長	杉 本 幸 治
総 務 部 長	萩 原 浩 一
民 生 部 長	猿 田 孝 弘

事務局職員（市長部局）

教 育 次 長	小 平 操
子 ど も 課 長	北 澤 英 二
社 会 教 育 課 長	小 出 孝 幸
教 育 総 務 係	小 松 義 知
教 育 総 務 係	下 島 清 志

会議のてんまつ

議事日程記載のとおり

午前10時00分 開会

○小平教育次長 皆さん、おはようございます。

お忙しい中、総合教育会議に御出席をいただきましてありがとうございます。

ただいまから平成29年度第1回目になります駒ヶ根市総合教育会議を始めさせていただきます。本日の進行を務めさせていただきます教育次長の小平でございます。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、最初に杉本市長よりごあいさつをお願いいたします。

○杉本市長 おはようございます。

今日は、本年度第1回目の総合教育会議ということでもありますので、主には、昨年度から意見交換をしてきて予算化をしたことの説明になるのかなと思っております。

あと、昨日もちょうど協力隊を育てる会がありまして、市内の小中学校の校長先生が全員おいでになっていたの、新しく、かなりの校長先生が替わったので「駒ヶ根市の子どもたちはどうですか。」っていうお話をさせていただきました。「本当にみんな明るくて、元気にやっていますよ。」と、そんなお話をいただいたのでうれしく思っています。

それから、私が最近非常にうれしいのは、実は、中学生があいさつをどんどんしてくれるんですね。何でこんなにあいさつしてくれるのかなって思って教育長さんにお聞きして、「学校でそういうふうな指導をしているんですか。」ってお話をお聞きしましたら、そうではなくて、子どもたちが自主的にみんなであいさつをしようっていう、そういう運動を始めたみたいで、私も歩いてここに来るときに、行き会う中学生から「おはようございます。」ってあいさつしていただいて、素晴らしいなあとうれしく思っております。そんな子どもたちを私たちがしっかりと見守っていくためにも、さらに力を発揮しなきゃいけないのかなって、そんな思いをしておりますので、ぜひ教育委員の皆様方にも、そういう目で、また子どもたちのためにいろいろな政策を提言していただければうれしいのかなと思ってます。

本年度でありますけれども、特に学級編成の関係では、赤穂南小学校の6年生の生徒数が少し減ってしまい、学級編成をしなくてはいけないということがあったんですけども、やはり安定した子どもたちの心っていうことを思うと学級替えはしない方がいいということなんで、市単で先生をつけさせていただきまして学級の維持をさせていただいたってことをしております。

それから、本年度のハード面では、特に東中学校の特別教室棟、昨日、入札が終わり業者も決まりましたので、着実に進めていきたいと思っておりますし、また、赤穂南小、東中学校の体育館のつり天井の改修をしますの、あとは赤穂小学校のみになります。それから、中沢小学校体育館の床を全面的に張り替えることや、東小学校のエレベーターの設置をしていきたいと思っております。

あと、本年度、大きなところで将来に向かっての構想っていうことでいきますと、保育園、幼稚園の施設整備です。赤穂南保育園、それから美須津保育園が古くなってきていますので、その辺の改築に向けて、色々な意味でしっかりと丁寧な説明をしていく年かなと思っております。

それから、赤穂公民館もできれば31年に建て替えをしたいということで進めておりますが、場所のことなど基本的なことを進めなくてはいけない年になっていきますので、ぜひよろしくお願いをしたいと思います。

あと、国民体育大会も長野県でもう2順目を誘致することが決まりましたので、駒ヶ根市としてどの種目を誘致をしていくかということも大きなテーマかなと思っております。

それから、スポーツの関係でいきますと、昨日、ランナーズの方からハーフマラソンのランニング100撰に選ばれたという賞をいただきまして、その中でもハーフマラソンの部分で全国で第1位ということをおっしゃって、ちょっとうれしいやら困惑するやら、これもひとえに市民を含めた皆さんがしっかりと盛り上げていただいて、選手たちをおもてなししていただいたことかなと思っておりまして、非常に感謝をしたいと思っております。

あとは、本年度の主な事業等については、この後、それぞれの方から説明をいたしますので、その中で、教育委員の皆さんから忌憚のない御意見いただければと思っております。

今年も一年間、どうぞよろしく願いいたします。

○小平教育次長 それでは、続きまして北原委員長さん、ごあいさつをお願いいたします。

○北原教育委員長 改めまして、おはようございます。

本年度の第1回目、どうぞよろしく願いいたします。

昨年度末あたりに話題になっていたニュースにありましたけれども、某学校法人の問題から教育勅語という言葉がまた出てきまして、色んなところに影響を及ぼしていることと、また、認可保育園では、認可をしている保育園なのに、その食事の問題ですとか色んな問題が出てきております。また、千葉県では見守り隊をされていた方による子どもの殺人事件も出てきまして、子どもたちに対する注意喚起や違った観点から子どもたち守っていかなくちゃいけないのかなと感じています。

また、子どもたちもこの4月に新しい1年生が入って元気にスタートをしてくれたということだと思います。学力テストもありましたし、中3の子は修学旅行へ行ってきたと思います。そんな中で、また、市長さんと教育委員会とは、スムーズに事業が進んでいくように、予算が決まって始まった事業に関しまして、私どもよりの考えをお聞きいただきながら、市長さんと忌憚のない話ができればいいかなと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○小平教育次長 ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿いまして会議を進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

最初に協議事項でございますが、平成29年度の事業の推進についてですが、年度初めでございますので、駒ヶ根市教育大綱を踏まえ、本年度の事業の推進の方針や主要な事業についての確認をさせていただきたいと思っております。

最初に小木曾教育長より本年度の基本方針、重点事項につきまして説明をお願いします。

○小木曾教育長 それでは、お願いします。

本年度の駒ヶ根市の教育ということですが、よろしくをお願いします。

基本的には、この平成27年の7月に総合教育会議で策定しました駒ヶ根市の教育大綱に沿って実現されるということだろうと思っております。

本年度は、この大綱は5カ年計画の3年目に入ることですので、これに沿って取り組みを続けていきたいと考えております。そんな中で、教育大綱のもと、今年はどう具体的に取り組むのかということ、1ページからの29年度の駒ヶ根市教育をご覧ください。

最初に、教育大綱にありますように、子ども課に係わる部分では、子どもたちに夢と希望、こ

れを大事にしたい、夢と希望にあふれる子どもたち、自己有用感や自己肯定感、自尊感情を持つ子どもたちを育てたいというのが大綱で決まった目標でございます。こんなことで取り組んでいきたいと思っております。直接この資料には載っていないんですが、そういうことの中間的な、まさに見返しになるなと思ったのが、昨年度の全国学力・学習状況調査の結果です。学力テストの中には、生徒質問用紙というのがありまして、その中で「将来の夢や希望を持っていますか」という問があったわけですが、駒ヶ根市、具体的には、赤穂中学校の学校便りの報告を聞いたところですが、「将来の夢や希望を持っていますか」という問に対して「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が81.4%でして、全国平均は71%ですので、10%も多いというのはすごくありがたいことだなあと思いました。今後は、さらに子どもたちの主体的な、あるいは対話的な学びを大事にする授業の実現を行い、普段の授業や一番時間をかける授業の中で自己実現を図り、できた喜び、わかった喜びを感じさせる、そんなことで子どもたちの自尊感情を高めていくことができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

その次に、資料でいきますと5ページからになりますが、社会教育課に係わる部分ですが、これについては、教育大綱の中で文化的、健康的な駒ヶ根市民の形成ということが謳われております。これに関しては、先ほど市長さんのお話にもありましたが、公民館の改築のことを計画していく、そういう時期なものですから、それに合わせまして公民館と文化センターのそれぞれの機能を見返す、そんな中で、駒ヶ根市の文化振興の基本理念といったものが策定できればありがたいのかなと思っております。具体的に一つの取り組み例として、かっぱ館では、かっぱ館周辺の地形と断層の学習、中沢石灰のこと、天竜川の船の通船など、そういったふるさと学びの講座を年7回ほど計画し、新しい方向が出てきているのかなと思いました。そんなふうにして、天竜川から、芸術的な振興にも関わっていきたくと思っております。以上です。

○小平教育次長 それでは、私の方から平成29年度の主要事業について説明をさせていただきます。なお、お配りした資料につきましては、既にこれまで説明をしてきたものばかりでありますので、詳細な説明は省略させていただきます概要のみとさせていただきます。

まず、平成29年度市の予算と主な事業ですが、説明のほうは省略させていただきます。

平成29年度教育委員会主要事業の取り組みについてですが、1ページ、「学校教育の推進」でございます。(1)が学力の向上、標準学力テスト等が全国平均を上回る8%を目標に進めているところでございます。(2)はコミュニティ・スクールの推進でありまして、ことし赤穂東小学校、東伊那小学校がスタートをし、指定校4校でございます、本年度、赤穂小学校が準備に入るといった状況であります。(3)の安全な学校施設、施設整備につきましては、先ほど、市長あいさつがありましたとおりでして、イロハにあるとおりの整備を進めてまいります。これにより主要な施設整備がほぼ完了しますが、あと、竜東学校給食センターを今後どうするかといった課題が残るかと思っております。

次に、2が「幼児教育の推進」です。(1)が体力、運動能力の向上ですが、十二天の森を活用した自然保育の推進などを挙げております。(2)は、レディースクリニックの「あそびのもり」というのもありますが、市内3カ所、子育て支援センターを開所しておりまして、機能分担をしながら子育て世代への支援を進めていくというもの、(3)は発達特性に対する支援でありまして、基本的につくし園を中心に事業をしているところですが、こちらの方の運営体制などについても検討をしていくというものです。(4)は子育て世代の負担軽減ということ、主に保育料の軽減で

ありますが、引き続き実施をしていきたいとするものです。一番下段の（6）は、先ほど市長あいさつにありましたとおりでして、保育園、幼稚園の施設整備について本年度進めていきたいというものです。

3 ページですが、上段3の「子育てによるこびを感じる家庭づくりの推進」、主に放課後の子どもたちの居場所づくりであります。それから中段の4の「安心して産み育てることができる環境づくり」は、産後ケアや不妊治療への支援。（3）の母子の健康管理につきましては1ヶ月児健診につきまして補助制度を新設したものであります。下段の5は、本年度から事業を進めてまいりますエル・システムでございまして、エル・システムジャパンと共同で部活動支援や、あるいは音楽祭の開催、弦楽器の教室などを進めてまいります。

4 ページですが、上段6の「生涯学習活動の推進」では、（1）にありますように十二天の森を28年度に引き続きまして森の中の整備を進めて、子どもたち、あるいは市民の皆さんが活用できるような整備を進めてまいりたいと考えております。（2）の社会教育施設は先ほど話がありましたとおり、赤穂公民館です。それから、文化センター大ホールのつり天井については、今年整備をしますが、引き続き必要箇所の耐震化検討です。ふるさとの丘について、子育ての視点や竜東振興の拠点といった観点からの整備も進めていきたいというものです。

中段の7の「文化財の保存・活用と文化芸術活動の推進」ですが、（2）にありますとおり、第4次総合計画や大綱に沿って文化芸術の進め方等をまとめた、そういった方向を示す指針について策定をしていきたいと考えています。（3）は、現在、市全体で取り組んでいるジオパーク構想等を、例えば公民館などを中心に、図書館等も中心にして推進をしていきたいというものです。

8は「スポーツの推進」ですが、ハーフマラソン等、（2）が国体の駒ヶ根市会場の種目の選定を今年度検討していきたいというものです。よろしく申し上げます。それでは、本題の意見交換に入らせていただきたいと思います。

○北原教育委員長 それでは、よろしく申し上げます。

この資料に沿いまして、学校教育の推進の1の中から下島さん。

○下島教育委員長職務代理 それでは、コミュニティ・スクールについて意見交換をお願いをしたいと思います。

先ほど説明にもありましたとおり、赤穂小学校が準備校で、これですべて5校がそろうということになります。私は中沢でありますので、中沢小学校の応援隊の一員として参加をさせていただいております。その感想を含めてということですが、中沢の場合は、もともとそんなような環境がある程度整っておりまして、そこへ、このコミュニティ・スクールの導入をして活動しているわけですが、雰囲気としては、やはり地域の子どもは地域が育てる、これが基本的な考え方でみんな取り組んでおります。全校で100名ほどの児童数であります。応援隊の数がそれに匹敵するくらいいるという状況です。応援隊には、もう子どもが大きい御夫妻や子どものいない方も加わってくれています。地域の中心に学校があるということで、学校を軸にこの地域を活性化していくといった雰囲気があると思っております。このことによって、学校と地域にすごく一体感が生まれてきて、このコミュニティ・スクール活動によって地域と学校とがすごく近くなったという実感を持っております。したがって、そのことの活動がこの市内全体の小学校に波及した場合は、非常に住民の学校に対する見方が違ってくるんじゃないかと考えております。これからさらにこのコミュニティ・スクールが進んでいくわけですが、各地区には、その特色、

特徴があると思いますので、それは学校ごとに特徴を出していけばいいと思いますけれども、これは、相当コミュニティ・スクールに対して力を入れれば、目に見えた効果が出てくるんじゃないかなあと感じております。そういう意味で、市長さんの見解やアドバイスをいただけたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

○杉本市長 今は多分、自治会の加入が少ないとか色々課題があるんですね。それで、例えばIターンUターンで戻ってきてもなかなか地域になじめないとか。今まで、私たちはどちらかというとそういう人たちのことばかり考えていましたが、やはり、世代間を超えた交流が重要かなと思っています。というのは、全国の市長会で、例えば子どもさんの合計特殊出生率が高いところ、それから人口が増えているところってどんな特色があるかって全部調査したところ、やはり一番は地域のコミュニティー力があるところでした。ということは、世代間交流がしっかりできている。要するにコミュニティ・スクールの発想です。それから、多世代で住んでいる人の率が高いところなど、地域で子どもを育てているという環境が整っているところが、実は出生率も高いし人口が減少していないという結果が出たんです。そういうことになると、これからは、区の役員組織など大人だけなんですけれど、実は、そこに子どもたちやPTAの人にも区の役員になってもらうような仕組みをつくっていかないと地域の力が落ちてしまうのかなと思っています。そういう意味では、コミュニティ・スクールっていうのは非常に今回取り組みたいと思っているんですね。そういう中で、中沢の皆さんの取り組みが雑誌にも取り上げられたりしたってことで、非常に素晴らしいなと思います。それでまた、応援隊の皆さんが学校に行っていて楽しんで、行くことを楽しみにしている、子どもたちと接することを楽しみにしている、そのことによって地域の力が確実に高まっていると思いますので、そういうのも、このコミュニティ・スクールの果たす役割であり、これを契機に地域づくりにもっと若い世代の人たちに入ってもらい、自分たちが自分たちの子どもに自分たちが何を残していけばいいかっていう、そういう考え方が出てくればいいのかと思っています。このコミュニティ・スクールを通して、地域の力が高まっていくことが、災害時もそうですし、いざというときの力にもなるのかなと思っています。また、保育園、幼稚園にも広めていければいいのかなと思っています。特に保育園、幼稚園は、女性の多い職場なので、何かあったときなど、男の人たちがかかわるっていうことになると、こういうコミュニティ・スクールと同じように、地域の皆さんと一緒に行って子どもたちを見守ってくれる。また、地域の皆さんから色々知恵をもらえると思うんです。先ほど教育長さんの教育指針の中で、かつて遊んだ外遊び、集団遊び、おにごっこ、かくれんぼ、缶けり、そういうことを教える人がいなくなっているの、そういうことをしていくと、お年寄りの皆さんも子どもさんたちとつながっていくようになる。だから、そういう意味では、このコミュニティ・スクールを契機に地域全体の力を上げていきたいと思っていますので、ぜひ教育委員の皆様方にも広めてもらいたいと思います。

○下島教育委員長職務代理 ありがとうございます。

○小平教育次長 もし関連で何かあればお出しいただきたいと思います。

○福澤教育委員 東伊那は、始まったばかりなので余り焦って色々やってもうまくいかないので、ゆっくりやった方がいいのではという話はしています。もともとそういう関わりがあって、学校と地域とはそういう繋がりがありました。それを整理した格好で、いい形で計画していきたいと思っています。

○北原教育委員長 私は、赤穂南小学校の応援隊をさせていただいて、応援隊の皆様はとても暖かい雰囲気でした。その中で、皆さんが少し懸念に思っていたのが、その役員としてやっていくことが、やはり偏りができてしまって、年齢的にもいつまでできるのかなあなんていうようなことをお話されていましたが、そんな中でも割と世代がそろって、応援隊の役員をされている方々が楽しそうに活動していましたのでいいことかなと思いました。子どもたちを通じて何か感じる事ができればいいかなと思いました。

○福澤教育委員 私の方からは、子育て支援についてです。少子化に関連して、特に赤穂南小学校は、これから先を見ても1学年70人を行ったり来たりする人数の配分で1年生まで見るとなっておりますので、70人が境で、71人になると3クラスになるということですので、その1人とか2人という数字の増減により、毎年、クラス替えの危機にさらされる状態になっておりますよね。これは、たまたまそういう数字が並んでしまっているのですけれども、子どもたちにとってみると、去年は2クラスで今年は3クラスになるといったことの繰り返しは、かなり負担になってくると思います。ですから、そこら辺は、本当は融通を少しくらいきいてもらって、68でも、68、67くらいまでは3クラスという形がとればよいと思います。ただそれは、予算の関係上、その費用がかかりますので難しい部分があるかと思いますが、これから先、もうしばらくこの状況が続きますので、是非そのあたりは何とかできるような形で方向性を見出していかないとと思います。それと、あとは、地域でその魅力ある地域をつくり出して、それで子どもたちを増やすということに導いていくことになれば、地区の区長さんや赤穂南小学校にかかわる地域の人たちにその現実を知ってもらい、子どもたちの抱えている現実を知ってもらわないといけないと思います。ですから、ぜひ、地域の区長会でもそういうことを呼びかけてもらって、実際、学校の現場はこういうことになっているということを知っておいてもらうということも大事だと思いますので、そういう方向に進めてもらえたらいいなあと考えています。

また、学校側というか、先生側からいくと、やっぱり先生たちも今大変な状態で、私も保育園の先生たちと、若い先生たちと話をするときがありますが、臨時の先生と正職の先生と2人いるわけですが、なかなか正規の先生を増やすには大変だと思いますが、臨時の先生は結構いて、同じ仕事と同じ責任を持って街の中を歩いたり子どもを連れてたりしております。今、働き方の改善をと国も言っておりますし、色々差があるのが現実ですのでそういうことも目をそむけないでやっぱり考えていかないといけないことだと思います。

○杉本市長 やはり、少子化なので対策はしなくてはいけないということで、昨年からIターンやUターンにより市外から来た人に対して、住宅を新築する場合に最大で100万円まで、特に中沢、東伊那に建てた場合は10万円加算する制度を昨年からはじめまして、昨年一年間で45の方が駒ヶ根市に移住されました。みんな子どもさんのいる方たちです。また、田舎暮らし推進協議会で移住された人が42人ですので少しずつですけども、そういう成果が出てきているのかなと思っています。

それから、先ほどお話のありました、保育園の先生と小学校のクラス替えのときの先生についてです。今は市費でやっていますが、私とすれば、県、義務教育の先生の配置というのは、県が第一義にあるものですから、今年も県の方へ話をしたのですが、四角四面、「人数が増えれば変えます」とのことです。そういったところが、子どもに目がいていないと思いますし、教育委員さんからもお話がありましたので、そういう声を、また市長会などを通して県の方

へ上げさせていただきたいと思います。やはり心のこもった教育っていうが必要なんじゃないでしょうか。市とすれば、また教育委員会の皆さんと相談する中で、子どもたちのことを考えれば、ある程度やっていかなきゃいけないのかと思いますけれど、それがすべてルール化みたいになっていってはやはりいけないので、子どもたちのことを考えるということは、もう少し県にも真剣に考えてもらいたいと思いますので意見していきたいと思います。

次に、保育園の先生との関係ですが、ちょうど私になってから、当時は新卒の保育士しか採用しておりませんでした。でも、その後に社会人枠をつくらせていただいて、臨時職員の方からも正規職員に採用するようにして何人か採用させていただいています。あと処遇面ですけれども、ほかの市町村と比べてもらうと駒ヶ根市の場合は、臨時職員の場合は、給与は若干低いですが、一般職と手当を全く同じにしていますので、ほかの市町村は、そこら辺がかなり抑えられています。それと、駒ヶ根市も今職員数が274人ですかね、そのうち保育士が55人くらいですかね。あと3歳未満児のほうが増えているので、残念ながら財政的にも今苦慮しています。だから、極力、臨時という形の方にもある一定の処遇はさせていただく中で、あとは保育士を長く続けたい方については、社会人枠の中で別枠で保育士さんを採用するという事で今やらせていただいています。また、財政的に豊かならできるわけですが、全体的に子どもがどんどん減っているものから、その辺のことも含めて今考えています。

いずれにしても、同じ仕事をしていて差があるということは、本来あるべき姿じゃありませんので、そこに近づける努力はさせていただいていますのでよろしくお願ひしたいと思います。

ただ、今、交付税全体が、駒ヶ根市の場合もそうですけれども、昨年で2億円くらい減ってしまいました。税収も減る、交付税も減るということで厳しいです。何とかその中でやるということで、駒ヶ根市の職員は340人いた職員を274人に減らしましたが、保育園の方は減らしていませんので、何とか子どもたちのところはしっかりしたいなと思ってやっています。

○福澤教育委員 財源が厳しいですね。

○杉本市長 そうです。やはり景気を良くしなければならない。景気が良くなって税収が増えない限り。

○福澤教育委員 企業誘致など駒ヶ根市の財源を増やして教育の方へも充てられれば。

○杉本市長 全体的にまちの活力が出るということは、雇用の場があって、働き口があれば、そこに来て住んでくれる人が増えるということですから、産業振興は大きな柱です。企業誘致関係では、昨年トヨタのフォークリフトの会社を誘致できたので、工場は未完成ですが、2～3年の内には完成すると思います。引き続き企業誘致には力を入れていきたいと思っています。

○福澤教育委員 ありがとうございます。

○北原教育委員長 続いて私からは、エル・システムのことを伺わせていただきたいと思っています。

今まで駒ヶ根市では、駒ヶ根高原音楽祭や合唱団などがあり、活動が広がっていたと思いますが、楽器に関するものが少なかったと思います。伊那市では、伊那文化会館にジュニアオーケストラがあり、実際に活動しており、その土地に音楽家の方々がいるところには、そういうものができていくのかなと今まで思ってきたのですが、このエル・システムにおいては、実際にどのような内容で進んでいくのかを市長さんのお考えの中であればお聞かせいただければと思います。

○杉本市長 エル・システムの目指すところは、早いうちから子どもたちにある目標を持たせることだと思いま。ベネズエラの場合も、要するに貧困から子どもたちが荒れていて、目標がなか

なか見つからず、そういう子どもたちを音楽によって集中させようということで始まったのがこのエル・システムです。子どもたちは、必ずしも全員が恵まれているわけではないんです。希望する子どもたちが、小さいときからそういうことができるといことです。ただ、せっかく始めても、指導者がいなくなってしまうと継続できなくなる。例えば、相馬市では、エル・システムを取り入れて5年後にオーケストラでベルリンフィルと共演したんです。その感動はすごいと思います。子どもたちが集団でやる喜びを知る。そのためには、この地域にいる指導者の皆さんに指導者になっていただきたいというのがエル・システムの考えであり、指導者の皆さんをしっかりサポートしたいというのがエル・システムの基本的な考え方です。

○小平教育次長 基本的な考え方は、希望する子どもたちは全員受けられるということ、それから、みんなでやると個人レッスンではなくて、全員が全体でやるというのがこのシステムになっています。現在ある部活の支援として、例えば金管バンドなどの支援からまず入るなど。エル・システムといっても、決まった仕組みがあるわけではないので駒ヶ根の仕組みづくりをしていくということです。地域の音楽家の皆さんとか、関係している団体の皆さんとか、そういう皆さんと一緒に作り上げていこうということで、これまで市内の関係する音楽関係者の皆さんとずっとお話をしてきまして協力関係を持ってきました。金管バンドであれば、例えば毎週週2日とか、そういったペースで行うのがいいのかなあということですが、子どもさんたちの学校や部活等を踏まえてよりよい方法を考えていくということです。

○杉本市長 相馬市も、子どもたちに加えて大人たちもやりたいという人が出てきて一緒に演奏したといいます。個人レッスンでできてからやろうというのではなく、みんなでやって楽しもうということです。そこがこのエル・システムのいいところです。相馬市では、プロの演奏会のときに、プロの方に教わってその中に入って演奏するらしいです。非常にいいと思います。

○小平教育次長 低学年も高学年も一緒になってということです。個人レッスンではなく全体のレッスンということで、そこはやっぱり違いますよということで、先生たちとも協力関係になれるということです。

○杉本市長 常に集団でやるということが特色です。

○北原教育委員長 ジュニア和楽器隊も集団で、8年目になりますが、子どもたちの中には、個人レッスンで習っている子もいますし、そこだけに来る子もいるんですけども、いい感じに習っている子が目立たないんです。始めたばかりの子も目立たないんです。下手だとか上手だとかということが目立たなくて、どちらも合わせて相乗効果で一つの音楽が作り出せる力が子どもたちにはあるんだということを痛感しています。今までは、バイオリンとかビオラとか、なかなか手も届かないしレッスン料も高いということもあったと思いますので、このことが根づいていくことで、駒ヶ根にいろんな音楽が流れることになって、それはすごく大事なことだなあと思います。また、最近、合唱でもよく言われていますが、声も年をとるんだそうです。いろんな合唱団がありますが、上伊那もみんな年齢が上がってきて若い合唱団がなかなか駒ヶ根にも根づかないので、いろんな音楽をやっていくために、曲によっては、若い子がいいとか年配の方がいいとかということのを伺いましたので、これをうまく活用して、本当に音楽が根づいていくといいなと思います。エル・システムで子どもたち全体を見るときに、なかなか音楽や芸術に対して指導料などお金が追いつかないというか、うまく目に見えて合っていないんです。その辺をこのシステムの中で指導される方にそういう金銭面でも保証していただけるようなことも合わせて考えて

いったらいいかなと思います。

○小平教育次長 そうですね。もちろん子どもさんからは、楽器とかの用意をしてもお金はいただきますませんが、指導者には、報酬を支払うことになっています。基本的には、国の補助制度を使ったり、あるいはエル・システムが全国から集めた寄附や大きな会社から寄附をいただいたりというシステムを向こうは持っており、そこと一緒になってやっていくということで、ボランティアだけで全部やるというものではありません。

○北原教育委員長 これは本当に指導者が一人いたらできるものではないので、周りのスタッフもすごく大事です。おそらく気持ちはボランティアでもいいのですが、かかる経費に関しても考慮に入れていかないとと思いますのでよろしくお願いします。

○杉本市長 相馬市が成功しているので勉強させてもらいたいと思います。また、大槌町でも5～6年前から始めたようですので見本にさせてもらって、教育委員の方々にも話をさせてもらいたいと思います。

○北原教育委員長 よろしくをお願いします。

○杉本市長 今、地域が注目され、そこへ行って住んでみたいと思うのは、こういう文化が大事だと思います。こういう取り組みをしていることで、駒ヶ根の魅力アップにつながって、駒ヶ根へ行って住みたいということにつながっていければ良いと思っています。

○北原教育委員長 附随して何かございますか。

○唐澤教育委員 大人も参加して良いことは、すごく良いと思ったのですが、大人が余りにも趣味の世界になってしまうと、それで地域の力を育むというのとはまたちょっと違ってくるのかなという気がします。世代間交流ですので良いことだと思いますし、クラシックにこだわらないということもすごく良いことだと思いますので上手に進めていただきたいと思います。

○北原教育委員長 その他よろしいでしょうか。ありがとうございました。

○唐澤教育委員 私からは、ジオパーク構想についてです。事業については進めていることと思いますが、その後のことについてお聞きしたいと思います。それと関連しまして、文化芸術振興指針を今年策定するというので、市が行う地域の特性ということを考えて、やはり山ということもあるのかなと思います。せつかく山がありますので、この辺の一番の資源ですし、何か活用できないかなと思います。観光資源を外に向かってではなくて、自分たちから地元を知るといった活動を何かできたらいいのではと考えてはいるのですが、どの位進んでいるのかお聞きしたいです。

○杉本市長 ジオパークは、昨年12月に上伊那の8市町村で協議会を立ち上げました。それで、今進めていることは、ジオパークのジオって何っていうことを、まずこの地域の人に知ってもらわないとなんです。ジオパークの認定を受けるためには、ジオパークの認定委員さんがお忍びで来て、タクシーに乗ったりして「ジオパークを進めているけど知っていますか。」と、市民の皆さんに聞いて、余り知れていないと認めてもらえない。要は、ジオっていうことを知って勉強して、自分たちがこの自然環境の中に生かされている、色んな歴史の中で地域がつけられ、その中で生きていることをまず知ることから始まるので、展示会をしたりして、8市町村でジオの広報をしています。色んなイベントをさせていただいたりしていますので、できれば1年くらいでジオパークの認定をもらえればいいんですけども、なかなか今ハードルも高くなってきていますので、まずはジオパークの認定を受けること以前に、ジオということをもみんなに知ってもら

うっていうことを進めていきたいと思います。この自然環境をこれからは自分たちでどのように生かしていくのか、どのように守っていくのか、それらを学ぶために、専門のスタッフや学術的にフォローしていただくために信州大学などと包括連携協定を結ばせてもらい、市民の皆さんにお知らせするツールなどを準備しています。教育関係では、そういうことを知ってもらうために私たちの副読本をつくっています。「わたしたちの駒ヶ根市」という副読本をつくらせてもらっていますので、子どもたちにもジオに限らず、この地域の歴史を知らせることがジオパークにつながると考えています。

文化振興につきましては、今まで文化をどう進めていくかという大きな指針がなかったものから、エル・システムを入れたり、赤穂公民館に新たに小ホールをつくったりというような話もあります。進めていく上で、文化、芸術の新しい指針をつくり、既存施設をどうしていくか、将来どんなものが必要なのかということを議論してもらい進めていくことがいいのかなということで、今回、指針をつくらせていただくことにしました。文化会館の使い方やどんなことを招致したらいいかということにもつながると考えていますので、そういう意味からも、文化芸術振興指針をつくっていききたいなと考えています。また、色々な意見等を提案していただければと思います。

○唐澤教育委員 また、十二天の森が市で取得されて、大分工事も始まって、道沿いの木が整備されたりしていますが、一年を通じて、みんなが使える山になることを期待しています。

○杉本市長 周りがうっそうとしているので子どもたちが入ると危ないとかが考えられますので整備しています。あと池を何とかして常に水を流せるようにきれいにしたいと考えています。蚊がいて大変だという意見も寄せられていますので。また、雨が降ったときに休める場所をつくりましたし、トイレと駐車場も増やすので、あとは、あの池をどうするかです。地震のときのため池等の安全性ということもありますので、それも合わせて、何とか水を引き込んで常にきれいな水にしておかないとだめかなと考えています。

○唐澤教育委員 元々は、ため池だったと思います。奥には、ほこらがあつた跡もあり、そういうことを知っている方もだんだん少なくなってしまうのでそういった記録だけでも残していただけたらいいなと思います。

○杉本市長 はい。子どもたち行くと、みんな結構楽しんでますね。やはり、ああいう自然環境が一番いいのではないのでしょうか。大いに利用してもらいたいです、安全面や快適さがないとですので色々な御意見を聞いて対処したいと思います。

○福澤教育委員 社会教育施設の整備の中でふるさとの丘の整備の推進ということで、東伊那の地域づくり委員会が動き始めたのですが、この方向性についてはどうなるのでしょうか。

○杉本市長 今提案していただいたのは、今年になってから地方創生の補助金をもらえないかということで、内閣府のほうに計画書を持参して話をしましたが、補助金をもらうためには有料にしていなければだめだということです。有料となると、ちょっとなじまないの、何かいい制度はないかと考えています。整備するだけで約2億円ですか。

○小平教育次長 2億円弱です。

○杉本市長 2億円くらいかかるんですね。大まかな見積もりで約2億円ですので市として単独で事業をやるだけの財源はないので何か補助制度を見つけないかということで、今色んなところへ提案、企画を持っていっていますので、補助制度ができれば、つくりたいと考えています。

○**福澤教育委員** ありがとうございました。

○**杉本市長** あと課題として、一部農振除外しなければならないということもあります。補助制度が見つかり次第つくりたいと思っています。

○**北原教育委員長** その他よろしいですか。

○**小平教育次長** それでは、ありがとうございました。

今、御意見いただきました件につきましては、またこの方針の中に盛り込んだりして進めていきたいと思えます。それでは、全体を通じてよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○**小平教育次長** それでは、以上をもちまして第1回の総合教育会議を閉じさせていただきます。

午前10時57分 閉会